

現職日本語教師を対象とした日本語再研修におけるゲストセッションについて
- 筑波大学留学生センターにおける
京畿道外国語教育研修院日本研修を事例として -

衣川 隆生 酒井 たか子

要 旨

本稿では、2005年度京畿道外国語教育研修院日本研修で実施されたゲストセッションについて報告する。まず、ゲストセッションの目標設定の背景を説明し、次に、ゲストセッションの進め方を概観する。最後に、研修生の報告に基づいて、事例を紹介すると共に、ゲストセッションの成果と課題を検討する。

【キーワード】現職日本語教師研修 ゲストセッション 社会言語能力 談話構成能力

Guest Sessions on Japanese Language Teacher In-service Training
of the Gyeonggi-do Institute for Foreign Language Education :
the case of training course at the International Student Center
of Tsukuba University, 2005

KINUGAWA Takao, SAKAI Takako

【Abstract】The International Student Center of the University of Tsukuba has held guest sessions for Korean high-school Japanese teachers on the in-service training program in 2005. In this paper, the author will first review the purpose of the guest sessions. Secondly, the author will report on the implementation, and finally discuss some results and issues for future consideration based on trainees' report.

【Keywords】Japanese Language Teachers' in-service training, Guest session, sociolinguistic competence, textual competence

1. はじめに

本稿では、2005年度京畿道外国語教育研修院日本研修で実施されたゲストセッションについて報告する。この研修は、韓国国内の高校で日本語を第二外国語として教えている現職日本語教師を対象とした日本語再研修である。

このゲストセッションの目標は以下の3項目である。

- 1) ゲストセッションの一連の流れを経験することにより、将来研修生が在職している高校でゲストセッションを企画、運営するノウハウを身につける。
- 2) ゲストセッションの一連の活動を通して、目的、場面、媒体に応じた日本語コミュニケーション能力を向上させる。
- 3) 日本の教育事情・宗教事情・文化事情に詳しいゲストとのセッションを通して、日本事情の理解を深化させる。

これらの目標を設定した理由は、主に以下の三点である。

まず、今回の研修生の日本語教師としての側面を考慮した目標である。韓国で現在施行されている第7次教育課程においては、正確さよりも流暢さを求め、より実用的なコミュニケーション能力を生徒に習得させることを目標とするという特徴が見られる。この目標を達成させるためには、教師は単に言語項目を指導するだけでなく、生徒が実際のコミュニケーションが体験できる機会をできるだけ多く効率的に与えることが必要となる。そこで、本研修においては、単にゲストを招待して講演を聴き、質疑応答を行うゲストセッションではなく、計画から交渉までを含む一連のゲストセッションの流れを体験することで、帰国後、職場においてゲストセッションを企画、運営できるようなノウハウを身につけることを期待した。これが第一の理由である。

第二に、本研修を受講する研修生は、短期間の日本滞在経験もあり、日本人の友人と交流を続けている人も多い。そのため、日本語による日常的なコミュニケーションには大きな問題は生じない。しかし、講演資料の理解やそのブックリポート、講演の理解や質疑応答、交渉場面や討論場面での言語運用、報告書の作成などはほとんど経験を持っていない。第一の目的として、ゲストセッションを企画、運営できるようなノウハウを身につけることを挙げているが、実際に、ゲストセッションを企画し、ゲストと交渉を行い、ゲストセッションを実施するには、書面による依頼や報告、協力の要請や交渉などのコミュニケーション能力が必要となる。そこで、資料解読、話し合い、交渉、講演理解、質疑応答、報告書作成という一連の活動を行うことで、様々な目的、場面、媒体で日本語を使用する機会を持ち、それによって、適切な日本語コミュニケーション能力が向上させられるのではないかと考えた。これがゲストセッションを設定した二番目の理由である。

最後に、この研修を受講する研修生は、2005年9月から1ヶ月間京畿道内の研修所において、韓国国内研修を修了した43名のうちの12名である。韓国国内研修では、文法、聴解、会話、

作文等の技能別の教材を用いてそれぞれの技能の向上を図った。日本国内研修においては、目標言語が使用されている文化・社会圏で研修を行うという長所を最大限活かし、日本の教育事情・宗教事情・文化事情に詳しいゲストと招き、研修生の動機付けを高めると共に、彼らの日本事情に関する理解を進化させたいと考えた。これが第三の理由である。

これらの目標、テーマに添って候補者にゲストセッションへの協力を依頼したところ、以下の3名の方から快諾を得た。

ゲスト1：茨城県立牛久栄進高等学校 教頭 的場伸一先生

「日本の高校事情・この地域の自然と文化」

ゲスト2：学校法人慈恵学園栄幼稚園園長・東福寺住職 橋本幸雄先生

「日本の宗教と幼児教育」

ゲスト3：落語協会理事 柳家さん喬師匠

「日本の話芸」

このうち、ゲスト1、2に関しては衣川が、ゲスト3に関しては酒井が中心となって依頼、予備交渉、準備を進めた。

2. ゲストとの予備交渉

ゲスト1、2については、ゲストセッション協力の承諾を受けたのち、衣川がゲストの職場を訪問し、予備交渉を行った。予備交渉においては、ゲストセッションの趣旨と進め方を説明した上で、以下の3点を依頼した。

- 1) ゲスト本人及びセッションのテーマの理解を促進する資料の準備
- 2) 事前訪問・事前交渉への対応依頼
- 3) ゲストから研修生への質問の依頼

1)、2)に関しては次章以降で詳しく述べる。3)に関してはゲストから研修生への質問の時間を取ること、韓国の高校で日本語を第二外国語として教えている研修生にゲストセッションのテーマに関わることで質問したい点の準備を依頼した。

ゲスト3については、酒井がゲストと東京において予備交渉を行ったが、上記の1)は酒井が直接準備することとし、3)についてはゲストの嘯を聞く時間を十分取りたいため割愛した。

3. ゲストセッションの流れ

ゲストセッションは、研修初日のオリエンテーションに続いて、表1に示す時間配分で進めた。以下、この順序にしたがってゲストセッションの流れを概観する。

表1 ゲストセッションの時間配分

	ゲスト1	ゲスト2	ゲスト3
準備・計画(全員)	3コマ	3コマ	2コマ
事前交渉(担当グループ)	課外	課外	課外
ゲストセッション(全員)	2コマ	2コマ	2コマ
報告書作成(全員)	2コマ	2コマ	2コマ
計	20コマ		

1コマは75分

3.1 オリエンテーション

オリエンテーションでは、ゲストセッションの目的、目標、進め方を説明した。その上で、12名の研修生を4名ずつ3つの担当グループに分けた。この担当グループがそれぞれのゲストセッションの準備、実施、報告書の作成を中心的に進めていく。ただし、ゲストとの事前交渉以外の活動は全員が関わっていくことも確認した。担当グループのメンバーは主に以下の活動を行う。

- ・資料解読の際のグループリーダー
- ・資料解読結果の報告
- ・ゲストセッションに向けた話し合いの進行役
- ・ゲストとの事前交渉
- ・ゲストセッション当日の出迎え、接待
- ・ゲストセッション当日の司会及び質疑応答の座長
- ・報告書作成に向けた話し合いの進行役

3.2 準備・計画

3.2.1 資料解読

資料解読では、有田(2004)を参考にジグソー学習法を取り入れ、事前にゲスト等が準備した資料を解読する。資料の数に応じて小さい作業グループに分かれ、協同で解読を進める。それぞれの作業グループに担当グループのメンバーが一人は入るようにグループ分けした。

解読に際しては、内容を理解するだけでなく、興味深かった点、自国と異なる点、疑問点などを抽出することを意識させるような課題を与えた。必要に応じて課題シートも準備した。

3.2.2 ゲストセッションに向けた話し合い

ゲストセッションに向けた話し合いでは、まず、資料解読の作業グループごとに、資料の要旨、興味深い点、疑問点などを他の作業グループに発表した。次に、発表内容を整理し、ゲストに特に何について講演してもらいたいのか、質疑応答ではどんなことを聞きたいかを話し合い、その結果に基づいてゲストセッション当日の予定と役割分担を決定した。作業グループごとの発表者、話し合いの進行役は担当グループのメンバーが分担して行った。

3.2.3 練習

必要に応じて、事前交渉の際の言語表現、ゲストセッション当日の司会、質疑応答の進行役や質問の仕方の言語表現を練習した。

3.3 事前交渉

事前交渉担当者を担当グループから複数選出する。交渉担当者は事前にゲストを訪問し、話し合いの結果に基づいて、ゲストセッション当日の予定の説明、ゲスト紹介の内容の確認、講演内容の交渉を行う。なお、事前交渉の内容は、フィードバック及び報告書作成のために全て録音された。

3.4 ゲストセッション当日

ゲストセッション当日は、担当グループのメンバーがゲストの出迎え、接待、最終打ち合わせを行う。そして、実際のゲストセッションでは、話し合いで決定した役割分担に従って、主に次のような流れで進行した。

- 1)開会の挨拶
- 2)ゲストの紹介
- 3)講演
- 4)質疑応答
 - ・研修生からゲストへの質問
 - ・ゲストから研修生への質問
- 5)振り返り
 - ・講演を聞いて、何を得たか、何が理解できたかをお礼とともに述べる。
- 6)閉会の挨拶
- 7)全員でゲストの見送り

3.5 報告書作成

今回の研修の中心となったゲストセッションの記録を残すとともに、次年度以降の研修生にどのような研修を行ったかを示すことを目的として報告書を作成した。

報告書作成では、まず、原稿の内容と担当部分を決定する話し合いを行った。内容については、以下のようなひな形を示し、必要に応じて適宜追加、修正を行うようにした。話し合いは担当グループのメンバーが進行役となり役割を配分した。原稿の作成は全員で行った。

- 1) ゲストセッションの進行記録
 - ・ 何月何日に何をしたか。
- 2) 準備・計画記録
 - ・ 資料要約
 - ・ コメント・話し合いの内容要約
- 3) 事前交渉記録
- 4) ゲストセッション記録
 - ・ 講演要約
 - ・ 質疑応答要約
- 5) ゲストセッション感想
 - ・ このゲストセッションでどのような成果があったか
 - ・ ゲストに対するお礼

4. ゲストセッション事例報告 - ゲストセッション2 -

ここでは、研修生が作成した報告書を引用しながら、ゲストセッション2の事例を報告する。

4.1 事前配付資料

ゲスト2の予備交渉においては、以下のような資料例をゲストに示し、資料の準備を依頼した。

資料例

- ・ 本人・お寺・幼稚園紹介文(何かに掲載された記事など)
- ・ 園児にどのような話をしているかのビデオなどの映像資料
- ・ 地域社会におけるお寺のあり方について(最近お読みになって興味深かった記事など)
- ・ 現代社会における幼児教育とその課題(最近お読みになって興味深かった記事など)
- ・ 日本社会における宗教(仏教)とその課題(最近お読みになって興味深かった記事など)

また内容に関しては、難易度を調整するため、適宜教員側で手を加えることも了解を得た。この予備交渉の結果、ゲスト2には以下の資料を準備していただいた。

- 1) 自己紹介・略歴(ゲスト作成資料)
- 2) 宗教とは何か(ゲスト作成資料)
- 3) 幼稚園入園案内資料
- 4) 「昨今の青少年の犯罪から」『茨私幼連報』第71号より(ゲストによる寄稿)
- 5) 「幼稚園から義務教育」『2006年1月1日読売新聞朝刊』より
- 6) 栄幼稚園 平成16年度発表会での保護者に対する挨拶ビデオ(8分28秒)
- 7) 栄幼稚園 平成17年度発表会での保護者に対する挨拶ビデオ(14分)

4.2 準備・計画

4.2.1 資料解説

1月11日に上記資料を配付し、翌12日には、資料6、7の映像資料を二つのグループに分かれて視聴した。視聴後の話し合いの焦点を絞るために、資料1のようなタスクシートを作成した。

この映像資料は、幼稚園の園長であるゲストが発表会に先立って保護者の前で幼稚園教育の大切さ、幼稚園の教育方針、及び昨今の少年犯罪の原因とその対策についての考えを述べているものである。

4.2.2 ゲストセッションに向けた話し合い

報告書では、この資料の内容及びコメントを以下のようにまとめている¹⁾。

(平成16, 17年)の栄幼稚園学習発表会での園長の話は以下のような内容であった。

1) なぜ幼稚園教育が大切なのか。

幼稚園は、どのように生きていくのかという基礎を習う時期で、社会性の基礎となる様々な人間関係を学ぶ時期だから大切だ。

(中略)

3) 幼稚園で何を学ぶのか。

他の人の立場を考えて、自分を引くこと、自分を犠牲にすること、自分をコントロールすることを学ぶ。

4) どうやって学ぶか。

親と先生が言葉で教えたり、家族や友達が話しているのを聞いたり、見たり、真似をしたりしながら、体で覚えていく。遊びながら身につけていく。そうやって、人間関係の調節能力を養う。

(後略)

* コメント

幼稚園教育の大切さについて異論はないが、一つ疑問がある。それは、あまりにも幼い時から自己制御を強制しているのではないだろうかというものだ。そのため、押さえられていた感情が急に爆発する場合もあるのではないだろうか。

この話し合いの結果に基づいて、事前交渉で何を話すか、ゲストセッション当日はどのような予定ですめるか、誰がどのような役割を分担するかを決定した。

これらの資料解読、話し合いについて、担当グループのメンバーは以下のように感想を報告している。

資料調査はビデオとゲストからあらかじめ送ってもらったプリントで行われた。2本のビデオではゲストの教育の哲学と信念が分かるようになり、プリントでは栄幼稚園の教育方針と目標、保育科目、時間、教育費、そして日本の仏教について分かるようになった。特に幼稚園の全景を手書きで書いてもらったお陰で自然に囲まれた環境の幼稚園のイメージをすぐ浮かぶようになった。(下線部は筆者による。以下同様)

この感想から、資料解読、話し合いはゲストの講演の理解を促進する先行オーガナイザーとしての効果があったと考えられる。資料を解読することで、日本の幼児教育や宗教についての知識を新しく構築できただけでなく、自国の教育や宗教と比較することで、既有知識の活性化も行えたのではないかと考えられる。さらに、研修生自身が話し合いによって、講演内容の焦点を絞り、質疑応答の内容を検討することで、講演に対する動機付けも高められたのではないかと考えられる。

4.2.3 練習

事前交渉に先立って、資料2に従ってどのように挨拶し、交渉すればいいかを確認し練習した。

4.3 事前交渉

1月13日に担当グループの2名が交渉担当者としてゲストを訪問し、事前交渉を行った。ゲストセッションでは、資料解読の際、疑問に思った点や関心を持った以下のような項目について講演してほしいと依頼した。

- ・幼稚園教育で大事にする教育内容
- ・人に迷惑をかけないように自分を我慢する教育だけでなく発散する教育はしているかどうか
- ・宗教教育を幼稚園でどのくらいしているか
- ・日常生活での仏教

この事前交渉について、交渉担当者は以下のように感想を報告している。

訪問する場所がお寺と幼稚園なのでゲストに会う前に敬語の使い方とか日本のしつけとかに対して自信がなかったのでもんどうに緊張した。

まず、印象に残ったのは、思っているふつうの幼稚園より豊かな自然に囲まれ、遊び場とか、おもちゃ室、教室などが大人の立場ではなく、幼児のレベルに合わせた感じがした。そして園長先生が(中略)やさしい表情で親しく迎えていただいて気軽にインタビューすることができた。それに先生は(中略)話の流れをリードしていただいて交渉がスムーズによく進んだ。

交渉のために、訪問してみて、日本の幼稚園とお寺に対して理解するいい経験だった。

この報告から以下の点が成果として示唆される。第一に、敬語やノンバーバルな礼儀作法を意識するフォーマルな交渉場面を体験する機会を持てたこと、第二に、実際に交渉を行い、その交渉がスムーズに進んだという成功感覚を体験できたこと、第三に、想像とは異なる日本の幼稚園とお寺を実感する体感できたことである。

4.4 ゲストセッション当日

ゲストセッション当日は、事前交渉での依頼内容に従って、主に以下の4点について講演をしていただいた。

- 1) 幼稚園教育の基本
- 2) 幼稚園教育の目標
- 3) 仏教
- 4) 何のために教育を受けさせ、宗教を信じさせるか。

当日について、報告書では以下のように述べている。

講演の当日、お寺の住職であり、幼稚園教育の専門家として深い経験を持っているゲストはいろいろの教育知識と仏教話など、この機会じゃなければなかなか聞けないいい講演をしてもらった。

この報告から、「目標言語が使用されている文化・社会圏の長所を最大限に活かし」、「日本の教育事情・宗教事情・文化事情に詳しく、ゲストとのセッションを通して、日本事情の理解を深化させる」という目標は達成できたと考えられる。

ただし、課題も残された。当初の予定では、質疑応答に30分程度時間をとる予定であったが、講演が予定より長引いてしまい、質疑応答の時間が10分程度しかとれなかった。これに関しては、次章で考察を加える。

4.5 報告書作成

報告書作成では、ひな形にしたがって、担当グループのメンバーが中心となり活動を進めた。報告書の内容に関しては、6章で考察を加える。

5. ゲストセッション事例報告 - ゲストセッション3 -

ゲストセッション3は、一流のプロの噺家にゲストとしての来校を依頼し、落語に関する講演および実演を研修生が直接、体験できる貴重な機会となった。本ゲストセッションは、ゲストセッション1および2とは多少異なるところもあるので、ここでは分けて紹介する。

5.1 事前準備

5.1.1 京畿道外国語研修院における研修

来日前の京畿道外国語研修院における研修の中に、「特集・日本語を楽しむ」の授業3コマが含まれている。これは、研修生が学習を通して、日本語自体を楽しみながら日本語能力を高め、また教育現場に戻って教えるときに応用できるものにしたという目的で授業内容を組み立てたものである。内容は(1)日本語のリズム・七五調、(2)ことば遊び (3)落語の3つのテーマから構成されている(酒井他 2005)。研修生は来日前に多少の予備知識を持ったところからのスタートとなった。

また、ゲストセッションの講師を依頼した柳家さん喬師匠には研修の教材作成の段階から噺の選択、録音などに協力いただき、本ゲストセッションのプロジェクトに効果的に繋げることができた。

5.1.2 資料購読

担当の4人の研修生は、来日前の予備知識の段階から落語に関心を抱いており、熱心に関わりたいという姿勢を示していた。酒井が、落語の簡単な説明、噺の種類、修業、師匠と弟子の関係などが分りやすく解説してある本4冊を紹介し、その中から他の研修生に紹介するのに適当な内容を選び出させた。また、落語協会のホームページには、落語家200余名による小咄などの動画が用意されているので、それを積極的に活用して聴く力を高めておくよう指示した。さらに、ゲストセッション当日の理解を助けるために、事前の準備時間2コマのうち1コマは、酒井が講義形式で、江戸っ子の言葉遣い、典型的な登場人物、その時代の職業、人間関係など基本的な情報についての解説にあてた。

5.1.3 実演準備

研修生も自ら実演することによって落語の難しさや楽しさを知ろうという目的で、当日3人が小咄を実演することになった。研修生の1人は韓国の笑い話を日本語に翻訳して落語仕立てにしたものにチャレンジするとのことで、噺の選択から考え始めた。他の2人は、いくつか紹介した小咄の中から選んだ。

5.2 ゲストと担当者との事前打ち合わせ

1月26日に、柳家さん喬師匠、4人の担当研修生および酒井が東京で約1時間、事前の打ち合わせを行った。

まず、送迎、プロジェクターやテーブルコーダなどの使用機器の準備、会場設営などについて確認し、その後研修生から日本語力の問題や研修生の興味・疑問点などを説明し、ゲストセッション当日の内容について決定した。ここでは、失礼のない依頼表現の練習などがそのまま実践として利用できたようである。

ゲストにとっても研修生との事前打ち合わせは、研修生の求めているものが分かり、また、実際のコミュニケーションを通して日本語力が把握できたことは意味があったとのことだった。

5.3 ゲストセッション当日

当日は、依頼内容に沿った形で、研修生の司会の下、以下の内容で進めた。

1) 落語について

落語の歴史、寄席、着物と手拭い扇子、修業、太鼓の種類など。

2) 演じ方 視線、登場人物による声の違い

3) 実演1 「がまの油」「平林」

4) 研修生の実演およびゲストの寸評

5) 実演2 「心眼」

6) 質疑応答



5.4 報告書作成

報告書作成においては、ゲストセッション2と同様ひな形にしたがって、担当グループのメンバーが中心となり活動を進めた。この内容については、次章で考察する。

6. ゲストセッションの成果と課題

6.1 ゲストセッション全体の感想から

ここでは、報告書からゲストセッション全体の感想を引用しつつ、ゲストセッションの成果と課題を検討する。

ゲストセッション3の報告書においては、以下のように全体の感想を述べている。

歌舞伎は見たことがありますが、生の落語には初めて接しました。一人で扇子と手ぬぐいだけであらゆる表現をすることができると知ってほんとうにびっくりしました。

国にはない落語を去年京畿道外国語研修院で初めて紹介してもらったときにはとても難しくて分かりにくいと思いました。しかし、授業を通じて短い内容の中に人間の考えや感情を表現するのが新鮮でおもしろかったです。

今回、筑波大学のゲストセッションの三時間目に柳家さん喬師匠をお招きして講義を聞いたり、実演を見たり、また、私たちが直接に実演して見ていただく時間を持ってました。たいへん緊張して心配しましたが、いい経験になりました

この感想から、目標言語が使用されている文化圏におけるゲストセッションの最大の長所である「日本事情の理解を深化させる」という目標は達成できたのではないかと考えられる。

また、ゲストセッション2の報告書では、次のように全体の感想を述べている。

ゲストセッションを終えて

期待と不安で新しい授業方式の第2のゲストセッションの授業が始まった。タイトルは『日本の幼稚園教育と仏教文化』であった。資料調査、ゲスト交渉、ゲストの講演準備など、すべての過程を四人グループの1チームが受け持って試して見るいい経験であった。

(中略)

資料調査、事前交渉、ゲストの講演の3つの授業過程を終えてよい新しい授業方法-ゲストセッションのだいたいの流れが分かるようになった。それで学習者の自主的な学習の力を培うため、いい授業法だと思って一度試して見たいと思った。ただし、今回のタイトルは教育同士として教育の基本の幼稚園教育は何が大事なのか、それから一人前の社会人として成長することを助けたり見守ったりするため、われわれはなにをすべきか、もっと深く知りたかったし、話しあいたかったが限られた時間に時間どおりに講演が進めなかったため、本当に残念であった。しかし、初めは不慣れな授業で見分けがつかなかったが、先生方のお蔭でいい授業法をまなんだ。この授業の経験を生かして国へ戻ったらぜひ生徒に試して見たいとおもった。再び授業のため苦労したセンター側の先生方とゲストにお礼の挨拶を伝えたい。

この報告からゲストセッションの成果と課題が示唆される。まず、成果としては、ゲストセッションの企画、運営の一連の流れを経験することにより、ゲストセッションが「学習者の自主的な学習の力を培う」ことに効果があると認識できたこと、そして、それを「一度試して見たい」「ぜひ生徒に試して見たい」と研修生が認識できたことにある。この結果から、「将来研修生が在職している高校でゲストセッションを企画、運営するノウハウを身につける。」とい

う目標は達成できたと考えられる。

一方、課題としては、当初の予定通りにゲストセッションを進めることができず、質疑応答の時間が満足に確保できなかったことがあげられる。講演を途中で打ち切り、質疑応答に移行することは通常のコミュニケーション能力が上級レベルにあったとしても非常に難しい技能の一つである。したがって、このような課題を解決するためには、ゲストセッションの準備段階で、ある程度、このような事態を想定して、どう対応すればいいかを検討する時間を設ける必要があると考えられる。

6.2 ゲストセッションに対する研修生の評価から

ゲストセッションに対する研修生からのコメントを得るため、研修終了時にゲストセッションについての評価を聞くアンケートを実施した。評価に関しては、「役に立つ(5)・役に立たない(1)」「面白い(5)・つまらない(1)」「来年必要(5)・来年不要(1)」の3面において5段階評価を求めた。

その結果、ゲストセッション2については、12名の平均はそれぞれ3.4、3.0、2.6であった。「仏教についてのことが難しく困った」という記述に代表されるように、仏教を理解するためには時間が足りなかったようである。

一方、ゲストセッション3については、12名の平均はそれぞれ4.8、5、4.9と高い評価であった。

また、全18の活動や授業の中から上位3つ選ぶという質問形態のアンケートでも、ゲストセッション2については、「難しかったもの」として、12人中11人がこのゲストセッションを選んでいった。単発のゲストに、研修生の適切なレベルと内容を推測してもらうことは予想以上に困難である。研修生に何をどう準備させるか、またゲストにどのように学習者のニーズを理解してもらうかの両面から解決を考える必要があるだろう。

ゲストセッション3については、「日本の文化を知る上で役に立ったもの」として、12人中11人がこのゲストセッションを選んだ。何百年も続いて、なお現在に息づいている話芸の持つ力であろう。「楽しかったもの」としても12人中8人、「やり方として興味が持てたもの」として7人が選んでいる。これは、プロジェクトとしての流れの中で、特に担当研修生とゲストとの丁寧な事前の打ち合わせが功を奏したものと考えられる。特に研修生の実演を取り入れたことに対する評価が高く、自由記述欄には多くの肯定的なコメントが寄せられた。

6.3 今後の課題

以上、ゲストセッションの事例を報告するとともに、ゲストセッション全体の感想、アンケート結果から、今回のゲストセッションの成果と課題を検討してきた。

上記アンケート結果に見られるように、ゲストセッション3は研修生からも非常に高い評価

を得ることができた。この要因の一つとして、来日前の京畿道外国語研修院における研修から「特集・日本語を楽しむ」の授業を組み込み、動機の高揚や知識の育成が行えたことが挙げられると考えられる。このように、韓国での研修と国内での研修が有機的に結びつけられた場合には、非常に効果が高いゲストセッションが期待できる。この点を考慮し、今後の研修カリキュラムを検討することが必要であろう。

今回のゲストセッションでは「目的、場面、媒体に応じた日本語コミュニケーション能力を向上させる」ことも目標のひとつとして掲げていた。話し合い、事前交渉、ゲストセッションの進行、報告書の作成という一連の活動を繰り返し行うことにより、様々な目的、場面、媒体で実際に日本語を使ってコミュニケーションを行う機会を与えられたことは大きな成果であると考えている。しかし、このゲストセッションを行うことにより、実際にコミュニケーション能力が向上したか否か、どのように向上したかは今回の研修では評価を行っていない。今後は、コミュニケーション能力の向上を測定する方法を検討するとともに、上述した課題を解決するためにゲストセッションの方法論も検討する必要がある。

注

1. 報告書作成の段階で誤字、脱字は訂正を行っている。本稿では報告書原稿は基本的に研修生が最終的に作成した原稿をそのまま引用している。

参考文献

有田佳代子(2004)「日本語教員養成入門科目におけるジグソー学習法の試み」『日本語教育』123号, p.96-105

酒井たか子・高橋純子(2006)「現職日本語教師研修のための総合教材開発 「日本語を楽しむ」の制作意図と発展」『筑波大学留学生センター 日本語教育論集』21号, p.201-224

資料1

- 1) これから、2つの作業グループに分かれます。それぞれの作業グループに2人ずつ担当グループの人が入るようにしてください。
(ア)栄幼稚園 平成16年度発表会での保護者に対する挨拶ビデオ
(イ)栄幼稚園 平成17年度発表会での保護者に対する挨拶ビデオ

資料の報告は、担当グループの4人がかならず1回はしてください。

ビデオを次のように見てください。まず、下のポイントに気をつけながら、テープを止めないで、最後まで見てください。そして、見た後で、下のポイントについて話し合ってください。

次に、大切だと思う部分について、何度でも繰り返しながらビデオをみてください。

【(ア・イ) 共通】

ビデオを見て次のことを聞き取ってください。

1. なぜ幼稚園教育が大切なのか。
2. 幼稚園教育は何を前提としていますか。
3. 幼稚園で何を学びますか。
4. 幼児はどうやって学びますか。どうしてですか。
5. この挨拶の内容についてコメント(強く同意できる部分・同意できない部分・疑問点など)を交換しあってください。

【(イ) のビデオに関する質問】

6. 「評価」について園長はどのように考えていますか。
7. 少年犯罪の原因についてどう考えていますか。
8. 少年犯罪防止のため、どんな教育をしなければならないと言っていますか。

資料2

ゲストセッションで実際にどういうふうに話せばいいか考えてみましょう。

1. 交渉するとき。

(ア) あいさつ

自己紹介

時間を取ってもらったお礼

ゲストセッションの依頼

(イ) 交渉

写真撮影・録音の許可(交渉の時・当日)

時間配分

特にお願いしたい内容

ゲスト紹介で何を紹介すればいいか

いつ、どこに来ればいいのか。誰が待っているか。

(ウ) 挨拶

時間を取ってもらったお礼

ゲストセッションの依頼

2. 当日

(ア) 挨拶

時間を取ってもらったお礼

交渉の内容の確認

(イ) 開会の挨拶と自己紹介

それでは、今日のゲストセッションを始めたいと思います。私は、今日の～の司会を務めます～と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

(ウ) ゲストの紹介

最初に、簡単に私のほうから、今日のゲストの先生をご紹介します。今日の先生は、(お名前)。現在(仕事や興味の内容)。～。それではよろしくお願いいたします。

(エ) 質疑応答

ありがとうございました。それでは、これから～に移りたいと思います。ここからは、司会を～さんに変更します。では、～さん、よろしくお願いいたします。

挨拶・開始

(オ) 先生からの質問の時間

(カ) 閉会の挨拶